

「真の希望に至るまことの絶望！！」

～メント・モリ！！死の記憶～

詩121：1-8

■ 絶望をどのように考えていますか？

絶望とはどのようなものかを考えたとき、私たちは愛する人に裏切られることや自分の願ったようにならないこと、人から批判を受けることなどに對し失望した思いを絶望だと感じています。しかしこれらは聖書でいう絶望とは違うことをあなたは知っているでしょうか。私たちは日々生きていく中で起こった失望を解決しないでいるとそのことが自分の価値観となつてきます。相手からされたことから自分を守り正当化するために「私はこう生きる」と決断するようになります。しかしそのような思いは劣等感や羞恥心を自分の心に植え付け、結果それがあなたを失望へと導き、絶望に至ります。しかし、聖書でいう絶望はそのようなものではありません。副題のメント・モリとは、ある将軍が戦いで凱旋したときにいつも自分の側近に言わせていた言葉で「死を記憶せよ」という意味があります。これは自分が常に死しに向かつて生きていくことを忘れることなく、高慢にならず自分を正しく保つことを忘れない（＝自己に死ぬ）ということをお伝えしています。私たちは死に向かう人生を生きています。そのなかで絶望とはなにか、真の希望とはなにかを受け取っていきましょう。

■ ニック・ブイチチの希望と絶望

オーストラリア生まれのニック・ブイチチ、彼には生まれつき手足がありません。彼はそのことで小さい頃から傷つけられ、自分自身を悲観し失望のなかで自殺まで考えました。手足を与えてくださいと神様に願ったこともありました。しかしそれが叫べられなくても彼はこの身体は神様が与えてくださったものであり、人生何度転んでも起き上がればよい、あきらめなければ失望に終わらないということに気がきます。そして今、神様から与えられた自身の使命を果たすべく、本物の希望はイエス・キリストの中にあり、希望とは、あなたの苦しみを神が与える無限の愛と恵みの中で見出すものだというを世界中の人々に伝え続けています。

■ 1 あなたの望みはどこにある？ (イザ40：28-31)

もしあなたが祈ったことが自分の思い通りにいかなくて失望し、神様から遠ざかるなら、あなたの見る目、望みは神様でなくこの世のものにあるといえます。クリスチャンでさえときに教会や隣人、社会に望みをおいてしまうことがあります。うまくいかないことを相手のせいにして、反対に自分を責めたりしていないでしょうか。思ったとおりに行かないことで躓いていないでしょうか。そのことで神様の元を離れてしまう人も中にはいるでしょう。しかしそれで永遠の命を損じるならもったいないことです。困ったときこそ本当のあなたの目的を見つけるチャンスです。ブイチチも初めは自分の身体に不満で生きる喜びもなかったときがありました。しかし真の絶望を見出した彼はイザヤ 40:28-31 にある『…主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることが出来る。…』という本物の希望を見出すことができました。以前メッセージで語った松下幸之助も苦しみの中で人となることを学んだと言っていたように、私たちは中途半端な生き方をするのでなく、この世に完全に絶望し、新しく主によって生まれ変わる必要があります。ガンによって声を失ったところから復活したペー・チェ Chol さんも本物の絶望を経験し、本物の希望を見出すことができた人の一人です。主に頼るならその人の絶望は絶望のままで終わらず、本当の希望になるのです。そしてそれは周りの人を変えようとする力となります。それはその人の見る目線が変わったからです。あなたは何をしていますか？私たちがもし山に向かつて目を上げ、助けがどこから来るのかを祈ることができるなら人生を変えることができます。しかしこれはよい状況の時にはなかなか気付けるのではなく、困難のときにこそ気付けるものです。神様はあなたに罰を与えたり試練を与えられる方ではありませんが、そのような状況になることを赦されることがあります。それは自分たちがはずしている的を元に戻すためです。目に見えない状況に絶望するのでなく、向きを変えて出発しましょう。

■ 2 真の絶望 help&hope

私たちは人間的な力で希望を得ようと思っても疲れるだけで諦めて終わってしまいます。神様は助けを求めるものに希望を与えてくださるお方です。ですから私たちがしなければいけないことはただ神様の前に出ることを選ぶということです。私たちは自分から茨の道歩んでいる時になぜここを通らされるのかと不満をいい失望することがあります。確かに神様はあなたが立って歩けるようにされますが、それは決して楽をさせるためではありません。神様はよろけず歩けるように力を与えてくださるよう、自分を大事にし戒めること、つまり自身を管理するように願っておられます。ですから神様が与えてくださっている目的を果たしていきましょう。そのために、真の絶望と向き合わなければいけません。それは、私たちが生まれたときから「死」に向かつて生きていくということです。死が絶望の究極であり、私たちは死と向き合わなければいけないのです。しかし、私たちはこの世で自分の願いが叶わないことや病を負ったことなど、環境や状況、恐れや痛みなどの感情からこれが絶望だと勘違いしている人がどれだけ多くいるのでしょうか。これらは世の中に目がいくときに感じる偽りの絶望であることに気付かなければいけません。神様は私たちに希望という陰に絶望があることをお伝えしています。あなたの目がこの世に向いているならば、本当の絶望である死に目を向けましょう。そして私たちはイエス様が十字架によって死を贖ってくださってくださった、イエス様を信じることは死で終わらないということをお信じて歩めばよいのです。神様は私たちに喜び楽しむことを望まれています。そして間違った道歩んでいるならそこを悔い改めて同じ道に歩まないようにすることを願っておられます。しかしそのような中で、自分の願いが聞かれないときには、それがなぜなのかを考えなければいけません。そこからなにかを学ばなければいけません。そこには人間的な価値観では考えられない神様の思いがあります。私たちは一人ひとり使命と計画をもって作られました。みんな違うのですから未だに人と比較して生きる人生を歩んでいるならば、それをやめなければいけません。このことは偶像礼拝や殺人とも同じ罪だからです。私たちは死に完全に絶望しなければいけません。私たちは死をコントロールすることはできないのですから、私たちは死に至る身体で死に至るまで熱心に生きなければいけません。自分に死に神様があなたのうちで生きることができるよう、目線をこの世から真の絶望に向け、主に助けを求めていきましょう。

■ 3 伝えよ！！

私たちの教会は 10 周年を迎え、感謝と自立をテーマに歩んでいます。神様はあなたに目的を与え、望みを与えてくださいました。そんなあなたは一番身近な隣人に目を向けていく必要があります。今、その人はこの世に絶望していないのでしょうか？私たちが絶望しなければいけない相手に隣人がいるのです。あなたが神様のこと、福音を語らずして滅びてしまう相手はいないのでしょうか。もし滅びるならその血の責任はあなたにあります。この世に対して絶望している人をそのままにしておいていいですか？あなたが先に神様に会った人に神様の元へつれてきてもらったように、今度はあなたがする番です。神様に会うなら全ての人が希望を持って、そのためには一人ひとりの愛のある行動が必要です。II コリ 5:17-21 にあるように神様は和解の言葉をあなたに授けられているのですから、あなたはイエス様の香りを放って伝えていきましょう。

さいごに

自分の死に目を向けていきましょう。死がいつくるか私たちに分らないのですから、それが明日くるかもしれないということを受け入れ、生きていく間に良い実が結ぶように神様に助けを求めましょう。私たちは有限の中で生きています。ですから人の目を気にして、この世のものに目を向けて生きるのではなく神様に目を向けて生きましょう。信じてあなたが変わるなら、神様によって周りの人々の人生を変える力となるでしょう。

(要約者：平澤 瞳)